



第38回日本レーザー医学会総会

会長：慶応義塾大学・物理情報工学科 荒井恒憲 教授

テーマに「産学連携による安全なレーザー医療の創造」を掲げ、理工学者の主催する総会の特徴が出る様に、レーザー医学のデバイス開発に資する議論の活発化に心掛けた。特別企画シンポジウム3件(12発表)、各科別のシンポジウム4件(24発表)、ミニシンポジウム6件(17発表)、一般演題口述22発表、一般演題ポスター26発表、計101件の発表で構成した。学問の基本は萌芽的な一般演題であるので、ポスター発表には座長の下でshort presentationを行うコアタイムを設け、議論の活発化を意図した。こちらは、発表者と質問者が近く、良い議論が行われた。天気に恵まれ、有料参加者が427名と望外の盛会となった。経費削減の為大学内施設を利用し、殆どの業務は研究室のスタッフと学生よって行った結果、従来の2/3以下に抑えることができた。

(荒井教授の文章そのまま)

